

[第 116 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和3年 6 月

NPO法人高島藤樹会



- 日 時 令和3年7月4日(日) 15時～17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 26 章 p.334～
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

6月5日(土)午後、安曇川公民館で第115回人間学塾を開きました。コロナ対策を十分に行いました。

まず、コロナワクチンの発明者の女性科学者、カタリン・カリコ博士のお話をしました。彼女は「物事が期待通りに進まないときでも周囲の声に振り回されず、自分にできることに集中してきた。私を「ヒーロー」という人もいるが、本当のヒ

ーローは、医療従事者など感染の恐れがある最前線で働く人たちだ」と言われています。ノーベル賞候補でありながらこの発言に感銘を受けたと述べました。

今回は『中庸解』第25章です。大意について次の様に説明しました。「誠は人々に天から与えられている(固有の)性にしたがう。そして自らを反省することにより固有の性にかえりさえすれば正しい生き方になる。いかなるものも誠でないものはない。聖人(教養人)はこのことを知徳しているので、固有の性になることを尊いとする。誠は自ら覚るだけではなく、自分以外の他人も誠に導かなければならない。自己が万物と一体であること、自他一如を自覚できれば、仁(思いやりの心)である。他人を導くとは、自己本来の真知に至ることであるから知である。仁も知も天の性であるから徳である。性の徳は、天、地、人を一体化する道である。ゆえに時に臨んでこのことを用いれば上手くいく」。

今回は参考資料として、『大学解』で藤樹先生が煩惱をなくすためには、良知に照らして「五事を正す」ことだと言われていること等を紹介しました。次にNHKで放送中の「瞑想でたどる仏教」を紹介し、煩惱をなくすためには、第一の矢(痛み)を第二の矢(苦しみ)に直結しないことが大切。苦しみを滅するための正しい方法を「八正道」という。その八正道を解説した資料を配りました。藤樹先生はすべてを体得されて述べられています。私たちも知識を体得することが大切です。

フリートーキングやアンケートで、参加者からは「高島市の聖火リレーで全盲の選手が走っていたが前向きな姿に感動した」等の意見、感想をいただきました。

全盲の聖火ランナーの話は、全盲になったという第一の矢(痛み)を第二の矢(苦しみ)に直結させず、(前向きな生き方)に昇華された好事例だと思います。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。